

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

廿日市市立廿日市小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	114	109	123	119	126	137	728	26	754
学級数	4	4	4	4	4	4	24	5	29

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	B	専科	B	A	推進	専科	A	A	A	A	A	A	A
5年2組 (担任：B)	B	専科	B	A	推進	専科	B	A	B	B	B	B	B
5年3組 (担任：C)	C	専科	C	D	推進	専科	C	D	C	C	C	C	C
5年4組 (担任：D)	C	専科	C	D	推進	専科	D	D	D	D	D	D	D

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：E)	E	E	E	F	推進	専科	E	専科	F	E	E	E	F
6年2組 (担任：F)	E	E	E	F	推進	専科	E	専科	F	F	F	F	F
6年3組 (担任：G)	H	H	H	G	推進	専科	H	専科	G	G	G	G	G
6年4組 (担任：H)	H	H	H	G	推進	専科	H	専科	G	H	H	H	G

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

- ① 教科担任制を実施し、同じ教科を教えている教員同士が授業について協議することで、授業の質が高まった。
- ② 児童の様子について共有する時間の確保。1日担任交代日や、給食時間の担任交代日の実施。
- ③ 教科担任制を取り入れることで、教科によって担当する教員が変わるため、中学校生活に近い学校生活を実現することができた。
- ④ 同じ教科を教えている教員同士が連携し、教材等の共有を図ることができた。



<成果>

- ① 担当教科を複数クラスで実施することができるため、授業での反省をすぐに修正でき、より深い教材研究を実現することができた。また、1教科に充てる教材研究と授業準備の時間を十分に確保することができた。
- ② 担任だけではなく、様々な教員が関わることで、多面的に児童を理解することができ、指導にも生かすことができた。また、担任以外とのつながりができることで、担任以外の教員に児童が相談する等、相談体制の強化につながった。
- ③ 中学校と同じ視点をもった授業づくりや、生活指導を行うことで、見通しをもたせるとともに、中学校へ進学することへの不安を和らげることにつながった。
- ④ 担当教員との連携・共有をすることで教材研究が深まるとともに、負担の軽減にもつながった。ICTを活用することで、授業準備や評価の面で、時間を確保することにもつながった。

＜課題＞

- ① 学習につまずいている児童がいた場合、授業時間外に指導をすることが難しい。また、複数の教科の枠を超えた教科横断的な学習をすることも自分が担当していない教科に関しては難しい面がある。
- ② 個々の児童について情報共有し多面的な理解をすることができるが、情報交換や引継ぎのための時間の確保が必要。
- ④ 時間割が複雑なので、教員が休むなどの突発的な事態への対応に毎回苦慮している。



＜対策＞

- ① 学習計画表やルーブリックを児童と共有することで、自己の学習について振り返ることができるようにする。また、アセスメントを充実させ、授業の中で個別指導の充実を図る。教科横断的な学びを実現させるためには、学年の教員との連携をさらに充実させるとともに、先を見通した単元づくりをしていく。
- ② 学年会の中で、児童の情報共有の時間を毎回必ず設ける。
- ④ 突発的な対応については、どうしても苦慮する面があるが、年度当初に少しでもスムーズに代わりの教員が対応できるように、学校全体の体制を確保しておく。